

チーム医療における糖尿病教室の役割と課題～検査技師の立場から～

独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター

臨床検査科¹⁾ 内分泌・糖尿病内科²⁾ 臨床研究部³⁾

○藤澤宏樹¹⁾ 名越咲¹⁾ 河野亜衣¹⁾ 笠井昇¹⁾ 仲野秀樹¹⁾

小川知子²⁾ 小早川真未²⁾ 亀井望²⁾ 尾上隆司¹⁾³⁾ 谷山清己¹⁾³⁾

【はじめに】

糖尿病教室は、糖尿病患者に対して糖尿病についての知識を正しく理解してもらい、生活習慣の見直しによる合併症の予防・治療を目的としている。これを医師や看護師などの他職種と連携して行うことで、多方面から患者を支援することができる。当センターでは2013年4月より、新人検査技師3名が糖尿病教室を行ってきた。検査技師の立場から患者へ糖尿病の検査項目について説明を行い、血糖コントロールの重要性について理解してもらえるよう力を注いでいる。今回、患者に説明を理解してもらえているか把握するために、2014年2月より検査科の糖尿病教室に参加された方にアンケート調査を行った。このアンケートの集計から糖尿病教室での検査技師の役割と患者との関わり方について課題が見い出せたので報告する。

【対象】

2014年2月21日より2014年5月16日に検査科糖尿病教室に参加された男性11名40～70歳代、女性11名20～80歳代を対象とした。

【方法】

指導前にアンケート配布を行い、終了後に実施した内容①糖尿病教室の指導内容②血糖③HbA1c④グリコアルブミン(以下GA)⑤尿糖⑥合併症⑦目標コントロールの説明に対して、よく理解できた、やや理解できた、どちらともいえない、理解しにくい、のいずれかを選択してもらった後、回収を行った。

【結果】

①よく理解できた55%(12/22名)、やや理解できた36%(8/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい0%、無記入9%(2/22名)②よく理解できた81%(18/22名)、やや理解できた5%(1/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい0%、無記入14%(3/22名)③よく理解できた59%(13/22名)、やや理解できた27%(6/22名)、どちらともいえない5%(1/22名)、理解しにくい0%、無記入9%(2/22名)④よく理解できた32%(7/22名)、やや理解できた45%(10/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい5%(1/22名)、無記入18%(4/22名)⑤よく理解できた64%(14/22名)、やや理解できた27%(6/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい0%、無記入9%(2/22名)⑥よく理解できた77%(17/22名)やや理解できた9%(2/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい0%、無記入14%(3/22名)。⑦よく理解できた77%(17/22名)、やや理解できた14%(3/22名)、どちらともいえない0%、理解しにくい0%、無記入9%(2/22名)。※アンケート回収率:100%

【考察】

アンケート結果より糖尿病教室の説明に対して理解で

きたと回答された方が多かった。糖尿病の検査項目である血糖、HbA1c、尿糖と合併症に対しては生活習慣病でテレビや新聞などに取り上げられているためか、理解できたと回答される方の割合が多く、患者自身も目標コントロールを理解している割合が多かった。しかし、GAについては、なじみがないという回答があった。血糖やHbA1cに比べてメディアに取り上げられる頻度が少ないことが原因でないかと考えられる。検査技師として患者の認識、知識を向上させるためにも、わかりやすい資料の作製、配布などを検討していきたい。

【結語】

アンケートから常に患者目線で、何を必要としているかを考えることがチーム医療における検査技師の役割であり、これまでの内容を見直すことが望まれると感じた。

<お問い合わせ>

独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター

737-0023 広島県呉市青山町3番1号

Tel:0823-22-3111 (内線番号2613)